

**商学部における特色ある学部教育の補助
「学部授業への授業特別協力者(ゲストスピーカー)依頼」報告書**

テーマ	国際課税の現場では何が起きているか		
科目名	税務会計論		
担当教員	山上 淳一		
実施日	2025年7月11日(金)	時限	4 時限目 実施教室： 8207 教室

実施趣旨（目的）

巨大税理士法人及び課税当局における豊富な国際課税（移転価格税制など）の経験を有するゲストスピーカーから、課税権の確保を巡って課税当局と納税者の間でどのような対決が展開されているのかについて具体的な実例等を交えながらお話をいただくことによって、税務会計論の重要な分野の一つである国際課税についての実践的な知見を獲得し、授業で展開される制度趣旨の解説や解釈論の理解の促進を図ること、さらに、将来の職業選択を検討する際に有益な情報を得ることを目的とする。

実施結果

KPMG税理士法人のパートナーで国税税務の専門家である中宇根幹夫税理士をゲストスピーカーにお招きし、「国際税務の現場では何が起きているか」というテーマで講話をいただいた。

講話では、国際課税の基本につき初学者にも分かりやすいよう解説をいただいた後、国際課税分野では通常どのような点が課税上問題となるのか、課税庁側と納税者側で見解の相違が生じる要因はどこにあるのか等について紹介をいただいた。

さらに、講師ご自身の国税庁における実体験に根差し、OECDにおける国際課税ルール作りや移転価格税制をめぐる各国との相互協議の実情等をご紹介いただいたほか、税理士法人における業務の実態や海外での活躍を目指すためのキャリア・パス等についても具体的にご教示いただいた。

公認会計士・税理士等の会計専門職や国税職員を目指す学生にとっては業務の実像に迫る情報をうかがう貴重な機会となり、また、その他の学生にとっても国際課税分野への関心を持つきっかけとなり、税務会計論の学修へのモチベーションが大いに高まったものと考えられる。

なお、特別授業の終了後には、将来税理士としての活躍を目指す学生等が進路等について熱心に相談する場面も見られた。